

4 スクミリンゴガイ

薬剤の箱施用及び本田施用する場合は、水深が3cm位になるようにし、できるだけ止水状態にする。

1) 調査方法

薬剤散布前及び散布7、14日後に1区1~10m²について生息数（穀高2cm以下と以上に分ける）を調査する。また、薬剤散布14日後（田植前の処理薬剤については田植後14日後）に1区200株について1株の2/3以上の茎葉が食害された株数を調査し、これを欠株として率を求め表示する。

2) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	穀高別	生 息 数			欠株(14日後)		薬害
				散布前	7日後	14日後	株数	株率(%)	
展示区			2cm以下 2cm以上 計						
対照区			2cm以下 2cm以上 計						

5 イネミズゾウムシ

成虫は、田植えと同時に水田に侵入し、葉を幅1mm長さ5~10cmの白い線状に加害する。幼虫は根を食事する。

成虫地冬で年1世代が主体であるが、移植期が早い程生息密度が高く、被害が大きい。

1) 調査結果

成虫数の見取り調査及び食害の被害程度を下記の調査基準により調査する。

発病程度別基準

程 度	発病程度 (圃場での観察)	階級値				
		A	B	C	D	E
A :	被害葉率91%以上の株					4
B :	" 61~90% "					3
C :	" 31~61% "					2
D :	" 1~31% "					1
E :	" 1%以下または被害なしの株					0

$$\text{発病度} = \frac{\Sigma (\text{階級値} \times \text{各株数})}{4 \times \text{全調査株数}} \times 100$$

2) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病株率 (%)	発病程度別割合					被害度	株当たり 虫 数	薬害
					A	B	C	D	E			
展示区												
対照区												

6 イネツトムシ

通常、稻作期間中に3世代をくりかえす。第1世代幼虫は6月、第2世代幼虫は7月、第3世代幼虫は9月頃に発生する。稻の被害に影響するのは第2世代幼虫である。幼虫は、葉を2～3枚綴り合わせてツトを作り、日中はその中に潜み、夜間に這い出して葉を食害する。若齢幼虫期に防除することが重要である。

1) 調査方法

①散布時期

第2世代幼虫期で幼虫の発生状況を観察し、葉身の先端近くを折り合わせた、初期のツトがみられる頃が適期である。

②調査時期

施用前と施用後10日頃の2回発生状況を調査する。遅効性の昆虫発育制御剤(IGR)の場合は施用後15日頃に追加調査を行う。育苗箱施用剤では、ツトが見られ始めてから7～10日間隔で2、3回調査する。

③調査

1区当たり100株程度について、株ごとに幼虫・蛹(在虫ツト数)を調査する。

2) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病株率 (%)	幼虫・蛹数			薬害
					散布前	10日後	15日後	
展示区								
対照区								

[ダイズ病害]

1 紫斑病

本病は、気温が20℃前後で開花期以降に降雨が続く年に発生が多い。また、種子伝染する。

1) 調査方法

①散布時期

開花期以降とする。

②調査時期

成熟期とする。

③調査株数および調査項目

25株から4莢、計100莢を採集し、乾燥後に脱粒して紫斑粒率を調査する。または、調査圃場別に収穫物が明確に分けることができる場合は、収穫物から任意に200粒を選び、紫斑粒率を調査する。

調査対象は、斑紋の径2mm以上を対象とする。

2) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査粒数	発病粒率(%)	薬害
展示区					
対照区					
無処理区					

[ダイズ害虫]

1 ハスモンヨトウ

1) 調査方法

薬剤散布前及び2、7日後に1区当り、は種条2m幅の中にある株のすべてについて、若、中、老令別の生息数と食害程度（概観%）を調査する。なお、この調査は2区（2箇所）について行う。

2) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	令別	生 息 数			食 害 程 度			薬害
				前	2日後	7日後	前	2日後	7日後	
展示区			若 中 老 計							
対照区			若 中 老 計							

注) 調査項目等の、前は散布前、後は散布後を示す。

2 カメムシ類

1) 調査方法

薬剤散布前及び2、7日後に1区当り、は種条2m幅の中にある株のすべてについて、種別（成虫、幼虫別）の生息数を調査する。これは2区（2箇所）行う。また、できれば収穫時に1区5株を抜き・取り脱穀し、健全粒と被害粒数を調査することが望ましい。なお、生息密度調査は1区50回振りのすくいとり調査で実施してもよい。

2) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	種別	散布前	散布2日後	散布7日後	斑点米	薬害
				成 幼 計	成 幼 計	成 幼 計	数	
展示区			ミナミ ホソハリ その他 計					
対照区			ミナミ ホソハリ その他 計					

3 マメシンクイガ・シロイチモンジマダラメイガ

1) 調査方法

収穫時に1区5~10株を抜き取り分解し、在虫数と子実の加害粒数を調査する。

2) 調査結果

マメシンクイガ、シロイチモンジマダラメイガ

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	在 虫 数			総粒数	被害粒数	薬 害
			マメシンクイガ	シロイチモンジ	計			
展示区								
対照区								

4 ダイズサヤタマバエ

1) 調査方法

子実肥大後期～収穫期に1区5~10株を抜き取り、被害莢数と被害粒数を調査する。

2) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	総莢数	被害莢数	不稔粒数	薬 害
展示区						
対照区						

〔鳥 害〕

1) 調査方法

は種後経過日数別に加害の有無を観察すると共に、出芽揃い後に1区当たり、は種条2m幅の中にある株のすべてについて出芽本数を調査する。またこれは3区(3箇所)行う。

2) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	加 害 の 有 無			出芽本数	薬 害
			播種3日後	播種6日後	播種9日後		
展示区							
対照区							

注) 出芽本数は、6m(2m*3ヶ所の合計値)で示す。この場合、は種量を揃えておくことが前提である。